

Title	張先生との出会いの日を偲んで
Author(s)	中園, 直樹
Citation	大阪公衆衛生. 1997, 70, p. 3-3
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83576
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

張先生との出会いの日を偲んで

関西医科大学公衆衛生学教授 中 園 直 樹

人を思うと書いて偲ぶと言うそうだが、張先生には、こちら大阪に来てから色々な公衆衛生関係の方々を紹介して戴き、本当に助けて戴いた。鶴丸局長とお目にかかる約束の日に、張先生の訃報に接したのも、何かの因縁を感じ、張先生を偲ぶ文を依頼されたので、張先生との出会いを謹んで書かせて戴きます。

札幌の北海道大学より誰も知己も、ご縁もない関西医科大学に赴任してきたのは5年半前の4月であった。北海道を離れる時に、「大阪には公衆衛生の領域には、大学人を始め、衛生行政関係者、保健所長さんら、数多くの優秀な人物がいらっしゃるの、それらの人々と一刻も早く親しくなって、色々助けて戴きなさい。中園君は直ぐ人と仲良くなれるから」と安倍三史名誉教授からの餞の言葉を胸に守口にやって来ました。関西医科大学の公衆衛生教室は安倍先生と同世代の東田先生が創設された教室でもあり、安倍先生も感慨深かったのでしょうか。

約1か月後の5月頃、大阪公衆衛生協会の理事会が森ノ宮であり、原教授の後任として役職上、その会に出席した時に、「札幌の地より、体一つ、徒手空拳で守口にやって参りました。本日ご参会の皆様のご指導やご協力がなければ、何一つ、この地でお役に立てないと思いますので、何分とも宜しく願い申し上げます」と型破りな挨拶をしたと思います。雑誌Timesを片手にされていた先生が、「中園さん、会が終わった後少し時間がありますか？」と尋ねられたので、「時間は充分あります」と答えました。「それじゃ、一緒にしましょう」とおっしゃって、直ぐ傍の大阪府公衆衛生研究所（生憎、所長の小町先生は不在であったが）と大阪府成人病センター

疫学部の様々な部署の方々に、私を引き合わせて戴きました。「一寸足を延ばして、府庁にも挨拶に行きましょう」と、私を連れて、府庁の環境保健部に出向されました。矢内部長をはじめ、名前も覚えられないくらい一挙に多くの公衆衛生関係の幹部職員や、第一線でバリバリ活躍中の課長や補佐の方々を紹介して戴きました。持っていた名刺が無くなる程でした。退庁の時間もとくに過ぎました。「ところで、中園さんはお酒はどうか？ 飲みますか？」とのお尋ねでしたので、「九州の鹿児島と北海道で、高校と大学を過ごしましたので、アルコールは結構飲めます」と答えました。「じゃ、西天満のお店を紹介しましょう。結構、大阪の公衆衛生の関係の方が集まる店ですよ、ご一緒しませんか？」、「単身赴任ですので、午前様でも構いません」とタクシーで乗り付けました。当時は大阪の右や左も判らない時でしたので、その後、その店に一人で立ち寄る時に大いに迷いました。夕方から、その店で二人で飲んでいましたら、矢内部長や昼間の公衆衛生協会でお会いしたメンバーの何人かと出くわし、「こんな店ですよ」とポツリとおっしゃいました。これが、張先生と初めてお目にかかった日のことです。

その後、張先生から折りに触れて、関西医大学生の公衆衛生の実習先の施設や保健所などの施設長や所長さんを紹介して戴きました。

5年たった今どうか、この地で公衆衛生をやって行けるのも、あの日の張先生との出会いがあったからこそと、有り難く感謝致しております。どうぞ、安らかにお眠り下さいませ。合掌